

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム虹の杜
(ユニット名)	星
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県日置市吹上町
記入者名 (管理者)	長山 とみ子
記入日	平成 21 年 10 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との垣根のない交流を虹の杜の理念にうたっており、地域の行事(おでばい、自治会主催温泉祭り、自治会奉仕作業、地域郷土芸能、伊作太鼓踊り)等に参加している。買い物(タイヘイ、Aコープ道の駅(物産館)、漁協。)幼稚園のお遊戯会、餅つきに招待される。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホール、玄関出入り口、職員トイレに貼ってある。人は人として幸せを感じるホーム。家族として全てに接し行動。生活リズムは個人のリズム。全てにおいて前向きに考え行動。の支援に心がけている。職員会議等、機会あるごとに確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をホーム内に貼っている。「地域との垣根のない交流」が理念の一つとしてうたわれている。家族会、運営推進会議等で説明している。ボランティア受け入れ時にも話している。入居時、必ず家族には、話している。自治会の行事、総会、清掃には必ず出席している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開園当初より自治会に入り、回覧板も活用している。行事(敬老会、茶話会)の時来所がある。通勤時、朝夕顔を合わせた時、挨拶している。同敷地内にある高齢者住宅には季節のおやつ(あくまき、カカラン団子、からいも餅、梅干)や祭りの風船ヨーヨーなどは訪問し、おすそ分けしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開園当初から自治会に加入し、自治会の清掃作業、総会、行事に参加している。自治会より花壇をいただき、整備している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>自治会花壇の整備、道路脇にある、花壇を散歩の時に草を取ったりしている。毎日曜日に配食のない高齢者住宅の方1名に食事を提供している。茶話会時、脳活性体操や転倒予防体操を取り入れている。地域自治会を交え消防署職員指導にて、虹の杜にて救急法を実施している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年自己評価を実施し、年を重ねるにつれて少しずつ、理解力が深まっている(前年度の自分の自己評価と比較している)。日頃行っているケアを振り返り、すぐに取り組める事は実践し、改善するよう職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果は職員会議、運営推進会議で報告している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を二ヶ月に一回行っており、職員会議で必ず報告し改善に向けて努力している。議題を参加者にも聞いている。意見の交換に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険更新の申請や、生保への相談、申請は管理者が行っている。市へ空き状況の情報提供を行っている。市より届いた、高額介護申請決定結果通知書を送っている。入所受け入れの相談も、担当職員と情報交換している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学ぶ機会の実施はなされていない。現段階では該当者なし。対応が必要と思われる利用者は現段階はいない。民生委員との情報交換している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的虐待はない。不潔更衣や繰り返しの訴え時、一人ひとりの状態、理解度に合わせた声かけ、見守りを心がけている。他の人のいる前での会話などの配慮、自宅から帰宅されたときなど、利用者の変化を見落とさない様、様子観察を行っている。利用者のサインを見過ごすことのないよう、気をつけている。マニュアルを作成し把握に努めている。言葉の虐待も見過ごさないように注意している。利用者に対する態度や言葉は心を持って受け止め返して行く事を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、管理者が説明している。状態変更の都度話し合いをし、家族、本人の不安の軽減に努めている。契約時には必ず行い、担当者会議、面会時に話したり、毎月のたよりにも記入したりしている。損害賠償の説明は行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中で、さりげない行動や言葉から感じとった事を、皆で検討し対応している。面会、外出、外泊を記入する台の横にアンケート用紙、意見箱を設置している。家族との面会外出時などに施設への要望はないか聞いている。尋ねられた事に対しては、その都度対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変化、発熱、皮膚疾患、血圧の変動、フラツキ、異常行動などがあった時、かかりつけ医への報告、身元引受人にその都度報告し、月に一回手紙にて居室担当、フロア責任者、管理者より健康状態、職員の異動等、報告している。面会状況に応じ、状態報告している。面会時に行事の写真をみていただいている。利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者の気持ちも面会時伝えている。預かり金は金銭出納帳に個々に記入し、領収書添付し、月一回の手紙に必要な残高を記入したりしている。面会時、残高確認、現金出納帳にサインして頂いている。文書以外にも随時、電話報告行っている。必要物品依頼も電話や文書で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿記入の所に意見箱を設置しており、話を聞いたりその都度伝えている。面会時、担当者会議、家族会、運営推進会議で話し合いをしている。(年間行事の予定、結果を話している)何でも言えるような雰囲気作りに留意している。家族会での提案、意見は、その場で話し合っている。決まった事は、後日文書で連絡している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、フロア会議で意見、提案を聞く機会を設けている。その都度意見を言ったり、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出ししたりするよう心がけている。不満は直接管理者へ発言されている。直接理事長に話す人もいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族が県外在住の方に特に対応している。病院受診など必要に応じて勤務調整し、実行している。大きな行事や外出の機会は職員体制を手厚くするなど工夫している。必要に応じて職員間の了解を得、勤務調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の実施はそのときの状況に応じて実施している。異動する場合は一名ずつの異動に努めている。新しい職員が入る時は利用者に紹介している。移動になった事を伝え、提供している。日ごろの交流を心がけている。(茶話会、誕生会、種まき、収穫、洗濯物干し、余暇活動の合同実施など)	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の後に勉強会の実施(テーマを決め取り組んでいる)。公文書できた研修は情報提供し、出勤扱いで参加している。公文書以外での研修は情報提供し、本人の希望のある場合は対応している。研修報告は職員会議での発表や、研修報告書を職員全員が閲覧できるようにしている。研修内容を回覧している。研修は交代で参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区認知症グループホーム協議会に入り、その中で、事例検討など、研修を設けて質の向上に励んでいる。研修参加時は職員会議で報告している。他の施設からの見学がある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	直接相談には応じている。食事会を、年2～3回して気分転換が図れる機会を作っている。職員同士の人間関係を、各フロア責任者を通して把握出来るよう努めている。自己でスポーツや友人とのおしゃべりで解消している。(希望休が取れるよう極力工夫している)	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も最低週1回は現場に来ており、利用者への声かけし、職員交えてのお茶飲み等行っている。職能給の実施。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みは家族が殆どである。本人に入居前に必ず、施設見学をしてもらっている。時間にゆとりのある時は入居者と一緒にお茶を飲んでいただいている。家族と一緒に来られる多くは本人よりも家族が気に入り入居されているように思う。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居までの期間が短い。家族はここでの生活ができるだけで良いと考えている人が多い。家族が県外在住で、同居できない。又、本人も同居を望まない。自宅で一人で生活する事に家族が心配であるケースが多く、誠意をもって対応に努めている。利用にいたるまでの苦情はなし。担当ケアマネジャーからの勧めがあつての申し込みも多い。(担当ケアマネから家族への説明がある)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工</p>	○	短期入所利用の活用を考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者、個々の性格を把握し、孤立している時には職員が声かけを行い、活動できるよう、支援している。座席の配置を職員間で話し合い、トラブルのないよう対処している。余暇活動を通し、働きかけている。毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話ができるよう配慮したり、役割活動など(テーブル拭き、茶碗洗い)を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。各フロアとの交流の場を確保、余暇活動などで、共同作業を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>夜勤、日勤者が個別記録し、申し送りや職員がいつでも、読める状態にしている。記録は、夜勤、日勤ともにわかりやすいように色分けして記入している。個別にケース記録、排泄チェック表をファイルに綴じてある。職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載し、職員間の情報を共有している。申し送り、と連絡帳の活用がある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>理事長がクリニック経営者であり、医療との連携は密である。本人、家族の状況に応じて通院、往診などの支援は柔軟に対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>防災訓練。救急法指導、住職の講話。各地域の民生委員さんの面会あり。ボランティア(行事、慰問等)の実施もある。防災訓練で、通報、避難、誘導の指導、説明を受けている。地域の花壇の花植えや草取りをおこなっている。居宅支援事業所の訪問がある。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>町の図書館の紙芝居を借り、誕生会で読んだりしている。本人の体調、家族の都合に応じて、訪問理美容サービスを利用している。本人の希望を聞き、家族に報告し、対応している。家族から、依頼された有償ヘルパーの利用がある。認知症をかかえる家族の集いに集積し、他の居宅支援事業所、地域包括支援センターとの交流がある。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>町単位の認知症をかかえる家族のつどいに出席し、グループホーム入所の前後の情報交換。家族の協力を得て対応している。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族、本人の希望にそったかかりつけ医と、事業所の関係を築き、家族と一緒に受診して頂くことにより、適切な医療説明が聞けるよう支援している。緊急時は、職員で対応している。定期的に二週間に一回通院介助。通院できない時は、往診してもらい、特変のある時の受診、往診。かかりつけ医より、家族へ連絡、相談後、協力医療機関への支援を行っている。複数の医療機関、受診の時は、家族の協力を得ている。(入居前の利用者本人、家族の要望がある時)。訪問診療(歯科)にきてもらうケースあり。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員よりかかりつけ医へ相談し、かかりつけ医より、協力医療機関へ連絡してもらっている。家族には、職員より連絡しているが、必要時はかかりつけ医より家族へ連絡したり、面談している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の中で、各フロアの担当看護師が決まっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、職員が見舞いに行き、職員が顔を出すことによって、早期退院ができるよう励ましている。病院関係者から、話を聞き状態確認している。家族とも情報交換している。多くの職員が見舞うように心がけている。超高齢者が多く、病气入院時は、ほとんど戻れないのが現状である。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、かかりつけ医、全職員、フロア会議等で話し、処遇を共有している。変化のある度に話し合っている。終末に対する対応指針(かかりつけ医の判断により、家族と相談し方針を決める)を定め状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。入居時にも説明している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	随時、本人、家族の意思確認しながら、取り組んでいる。家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、職員が、連絡をとり、状態変化があった時は、その都度、医師に連絡し、指示を仰ぐ。夜間、早朝でもかかりつけ医が対応可能。かかりつけ医、不在時は協力医療機関へかかりつけ医より連絡が行き、迅速な対応体制がある。居室移動し、スタッフ室、ホールに近い居室でスタッフ利用者の往来が多い場所で変化に気付きやすい場所の確保を行っている。状態の変化に伴い、主治医の判断により、ホームでの生活が困難となった場合は、入院、及び相応の機関への対応とする。家族や本人の要望をできる限り取り入れ、かかりつけ医と状況報告を密にとり、サービスを提供している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所(施設)に移られた場合、ケアプラン支援状況を手渡すと共に情報交換を行い馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなどしている。施設から在宅への復帰時は住宅改修の情報を提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排尿排便の失禁時、さりげなく声かけし、言葉を選び対応するよう心がけている。排便の有無など、他の利用者のいる前で大きな声で尋ねない等。プライバシー保護の徹底や個人情報漏洩防止の責務は徹底している。利用者一人ひとりに合わせた言葉かけに配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日何をしたいか、どの服を着たいか、一緒に選ぶ。バイタル異常のない人に対し、外出嫌いの方には行きたくなくなるような言葉かけを行っている。出来る限り時間をかけ意思表示を待つよう努める。個々に合わせた説明を行い、自己決定できるう、配慮し、納得しながら暮らせる環境づくりに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のバイタル測定の後、一人ひとりに今日は何をしたいか聞き、できることはすぐに余暇活動で実施する。個人の体調に配慮しながら、眠いときは居室で横になって頂く。居室でゆっくりと新聞を読んで頂くなどしている。基本的な一日の流れはあるが一人ひとりの体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援に配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、入浴後には櫛を手渡し、といて頂く。洋服は一緒に選んだり、洗面所の前で整容している。理、美容は家族と馴染みのところへ行っている。必要に応じて、出張美容の利用を行っている。自己決定しにくい方には声かけしながら一緒に決めている。常に清潔な衣類を心がけ汚れたら更衣の支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、赤飯か散らし寿司のうちどちらか選んでいただいて、メニューに取り入れている。たまねぎの皮むき、もやし根とり、ピーマンの種とり等、盛り付け、食器洗いなど、体調を伺いつつ職員と一緒にしている。本人の割烹着を着用。利用者と共に植えた、ピーマン、ナス、トマト等を収穫し食材として使っている。職員、利用者、同じテーブルにて同じものを一緒に食べている。個々のレベルにあわせてできる事を一緒に行い、食事が楽しめるよう支援している。朝のお茶の時間に本日の献立を話している。片付け、食器洗いなどに参加できない方にはテーブル拭きをお願いしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食時、焼酎の提供をしている。食材購入時、同行した時は、自分の好きな菓子を選んでいただき、10時15時に提供している。家族の面会時は、差し入れは自由とし、居室で家族と一緒に食べてもらっている。家族からの差し入れの提供(焼酎、コーヒー、オヤツなど)している。一人ひとりの体調に応じ、好みのものを提供している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	余暇活動で、戸外へでかける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をして欲しいと希望があれば、内容を聞き家族に伝え会話ができるよう支援している。職員が電話し本人につないでいる(本人が番号を覚えていない。電話機の使用が困難)。手紙は希望に応じて代筆や、書く際は補助している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた際は受付にて面会簿に記入して頂く。ホール、交流センター、本人の居室等で談話して頂く。お茶、手作りのおやつのある時は提供している。訪問時間など決めておらず、仕事帰りやご家族の都合の良い時間にいつでも面会できるよう配慮している。普段より居室の整理に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でのマニュアルを作成しており、勉強会の実施もある。身体拘束はしていない。各自が目を通せるようマニュアルが設置しており、理解するようにしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に、居場所の把握に努めている。日中、夜勤帯の居室、玄関は21:00～6:00まで鍵をかける。外に出ようとされた時はその都度、話を聞き一緒に、散歩している。利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声かけしている。部屋の鍵はかけていない。又、ミーティング室にて管理者と話しをする場を設けている。1, 2階出入り口にセンサーがあり、対応している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず、物音がした時、夜間は最低2時間おきの訪室を行っている。昼間は、居室を訪室したり、ホールにて、活動中や外出時は、さりげなく、見守り、声かけし危険のないよう、誘導を行っている。歩行不安定(転倒防止)の方が居室で過ごしている時は、靴に鈴をつけ早期に対応できるようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針、ハサミ、糸、爪切り、電気髭剃り等 職員で管理し、使用する際は職員の目の届く所で使用して頂き、見守りをしている。化粧品などは管理できる人に限り本人持ちである。職員も所持している事の理解に努めている。面会、外出、外泊後、家族の協力を頂き、居室整理し、危険物の早期発見に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々のマニュアルがある。薬は日付、名前を確認し、朝、昼、夕、寝る前と声を出して、手渡している。薬袋全部に名前、朝、昼、夕、寝る前と記載してある。行方不明マニュアルがある。転倒の恐れのある方には同行している(洗面、トイレ⇄ホールへの移動)事故発生した時は、速やかに、家族への説明と報告を行っている。ヒヤリハットとして記録している。年間の計画の中に、転倒の勉強会も含まれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	二ヶ月に1回、災害訓練を実施する。火災、風水害、地震時の非難(昼、夜)訓練を実施。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	今後も適度な運動や食材の工夫に努める。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に、毎食事摂取量は把握し、記録している。能力的に加減できない人は職員で調整している。旬の野菜を献立に取り入れている。柔らかなめに調理し、提供している。個人に合わせて刻みの提供もある。朝食前、毎食時、10時、15時、入浴前後、就寝前に水分補給を実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成している。。トイレ、洗面所の共有のタオルを使用していない。利用者および、家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。職員は年一回検便している。手洗い、消毒励行している。各フロアにある疾病マニュアルを繰り返し勉強会でやっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	地産地消の野菜、魚の購入に努めている。まな板、布巾は漂白し、定期的に殺菌消毒している。食器は毎回乾燥機を使用している。食材は日付等を確認し、新鮮な物を購入している。毎日、まな板は、熱湯消毒している。買い物日に、冷凍、冷蔵庫の食材を使い切るように献立を工夫している。月、水、金、に食材の買い物に行っている。食品別にまな板を使いわけている。状態を確認し使用、管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲、玄関近くには花壇、プランター使用にて季節の花を植えている。玄関には花を飾っている。玄関には鍵をかけていない(開放時間6時～21時) 花を生けたり、玄関先にプランターを置いたりして季節感を味わえるようにしている。玄関先で、お茶を飲めるスペースを作っている。季節の花も家族からの提供もある。玄関付近にゴミ箱の設置をし、美化に取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、換気や掃除を行い清潔にしている。季節感のある花や絵、写真を飾り、利用者、面会者が楽しめるようにしている。童謡、民謡、流行歌を流し、料理などで、五感や季節感を意識的にとり入れるよう工夫している。季節のおやつ(よもぎ餅、いこ餅、カカラン団子、ちまきなど)、漬物(梅干、高菜の漬物、にがごりの漬物)を利用者と共に作っている。行事にあわせた、飾りの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間で居室への行き来が自由にできる。ソファや畳があり、自由に利用できる。各フロア間の行き来も自由であり(職員同行)、お茶のみも自由である。仲のよい利用者同士でくつろげる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具、寝具、衣類、椅子ソファを用意し、本人、家族もくつろいでいる。テーブル、ご飯茶碗湯呑み、箸を使用している。自宅に居るときと同じようにできるよう工夫している。家族の写真、ぬいぐるみなどを持ってきている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、出入り口、ホール脱衣場に温度計を設置している。24時間換気扇使用。掃除時は窓を開ける。定期的に空気を入れ替えている。寒暖差のある日は、空調設備で温度調節を行ったり、換気している。気になる臭い(便)には、消臭スプレー等を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、ホールに手すりの設置。浴槽内には滑り止め、マットを使用している。必ず、介助者一人、利用者一人の脱衣場、浴室利用である。居室、ホール、トイレに段差はない。物干し、洗面台、便座も低い高さを設けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の居室入り口に名前、写真、造花、ぬいぐるみを飾ったり、目印になる物を置いている。利用者の表情、言動行動から本人がどうしたいかを感じ取り、さりげなく支援している。失敗を責めないようにしている。状態変更したらその都度、話し合い関わる人の処遇統一に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は外気浴をしながら、レクや散歩、談話やお茶を飲んだりしている。畑や空き地を利用し季節に応じた野菜や花の植え付け草取りし、水やり収穫を楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年間行事（花見、ホテアオイ見物、温泉祭り、敬老会、忘年会、家族会（4月、9月）農業祭、文化祭、遠足、毎月の茶話会）等を計画し、地域との交流としては自治会に開園当初より加入し、自治会奉仕作業、地域の行事（総会、おでばいなど）、郷土芸能、温泉祭り（灯籠作りや踊りの披露）に参加したり、見物を行い、外出の機会を設けている。食事の材料は地元の道の駅で、野菜、果物を購入し、魚は地域の魚屋の利用と4.5キロ離れた、漁協に利用者とともに買い出しを行っている。新鮮な食材を調理している。季節の行事の菓子作り（いこ餅、かからん団子、ふくれ菓子、あくまき、から芋餅、よもぎ餅等）を利用者とともに作り、隣の住居人にも配っている。漬物（高菜、即席漬け、梅干等）利用者とともに作っている。